

製品名: Chk2 (リン酸化 Thr68) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21000**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	ホスホ
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:61kD;Observed MW:61kD

抗原情報

遺伝子名	CHEK2
別名	CHEK2;CDS1;CHK2;RAD53;Serine/threonine-protein kinase Chk2;CHK2 checkpoint homolog;Cds1 homolog;Hucds1;hCds1;Checkpoint kinase 2
遺伝子 ID	11200.0
SwissProt ID	O96017
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

背景

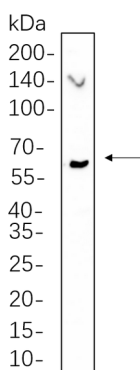
細胞局在: [アイソフォーム 2]: 核。アイソフォーム 10 は細胞全体に存在します。[アイソフォーム 4]: 核。[アイソフォーム 7]:

核。[アイソフォーム 9]: 核。[アイソフォーム 12]: 核。核、PML 体。核、核質。TP53 と共に PML 体にリクルートされます。DNA 損傷および複製阻害に応答して、重要な細胞周期調節因子の制御により細胞周期の進行が停止します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞周期チェックポイント調節因子であり、腫瘍抑制因子と考えられています。DNA 損傷に応答して活性化に不可欠なフォークヘッド関連タンパク質相互作用ドメインを含み、複製阻害および DNA 損傷に応答して速やかにリン酸化されます。活性化されると、コードされているタンパク質は CDC25C ホスファターゼを阻害し、有糸分裂への移行を阻害することが知られています。また、腫瘍抑制タンパク質 p53 を安定化させ、細胞周期を G1 期で停止させることが示されています。さらに、このタンパク質は BRCA1 と相互作用してリン酸化することで、BRCA1 が DNA 損傷後の生存を回復することを可能にします。この遺伝子の変異は、遺伝性の変異に関連する浸透率の高い家族性癌の表現型であるリ・フラウメニ症候群と関連付けられています。

研究分野

-

画像データ



NIH-3T3 全細胞ライセートを 10% SDS-PAGE で分離し、膜を Chk2 (リン酸化 Thr68) ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG (H + L) 抗体を用いた。